

『真光寺川 里親の会』通信

12月号 一通算第81号

2007年12月9日

平成橋付近の残したい《田園風景》

真光寺川八景紹介- その4

私

が、真光寺に最初に訪れたのは昭和37年の秋である。真光寺に住んでいた同僚が柿を食べに来ないかと誘われたのがキッカケでした。世田谷街道から右折した途端、舗装道路はガタガタで車の轍（わだち）があり草がぼうぼうと茂っていたことを記憶しています。勿論、現在の会社のアパートはありませんでした。私は会津に生まれ育ちましたが東京にも自然が残っているものだと、感心したものです。その後、縁あって昭和48年に真光寺に土地を購入しました。当時は川崎市宿河原の社宅に住んでいましたので休みにになると子供を連れて真光寺周辺に遊びに来たことを思い出しています。当時の真光寺は土地区画整理中ではあったが、自然の風景が残っていました。



平成橋付近の里山風景

真

光寺川は自然の流れであり、現在のマクドナルド、ワークマンの裏側に2メートル近い川がゆったりと流れていました。我が子にフナを捕ってやったことを思い出します。周辺にはタンポポの花が咲き乱れ、クローバーの白い花が自然を満喫していました。あれから30有余年の間に川は消え、そして自然も消えようとしている、そのことに何もできない自分が居る事に腹立たしくなることもあります。

昭和60年前後は年明けの1月から2月にかけて雪が降りました。62年と記憶していますが通算積雪量が1メートル近く降ったことがありました。平成橋付近一帯の田んぼは雪で覆われ、固まり自由に走り回ることができました。雪面に犬を放すと飛び回ったものです。また、真光寺公園に子供を連れてそり遊びが出来たものです。残念ながら温暖化の影響かとは思いますが降雪はなくなり都会では雪に接することは出来なくなりました。現在は広袴調整池に至る真光寺川は暗渠になり当時の姿を見ることは出来ないのが残念である。

神

明橋から平成橋の川添えにある田んぼは年々、少なくなり田植え後のカエルの声も何故か力が無くなり、そして秋の収穫時の田園風景、刈り取り後の稲穂を算木（さんぎ）にかけて天日干しする姿は少なくなり一抹の寂しさを感じるのは私だけだろうか。算木にかけた稲穂が秋の夕日を浴びて日が傾くに連れて稲穂の影が長くなる姿は日本の田園風景の代表的な風情ではないでしょうか。神明橋付近から望む晩秋の夕暮れの景色には里山の面影を辛うじて残しているのが救いである。



刈り取り後に算木に干される稲穂

そ

の景色も押し寄せる宅地開発に押しつぶされようとしている。自然を守ることの難しさ、人の住環境の確保との競合である。自然を保護しつつ、住環境との調和を図るにはどう

すれば良いのかが問われている。破壊した自然を取り戻すには長い年月を要することを肝に銘じたいものである。休耕田は1年後には草が、そして3年後にはススキが進入してくる。田んぼを保護し自然を守ることは、稲作作りを続けることが不可欠である。しかし現実には小規模農家、特に地方では後継者問題も含めて出口が見えないのが実情である。真光寺川添えの田園風景を今後とも保つことは個人やボランティアの力だけでは限界がある、しからばどうすれば良いのか、と問われれば答えが出ないのが現状である。(生江 透記)

和光学園・鶴小4年生 真光寺川源流探検!

松 井先生から源流を探検したいというお話がありました。11月14日(水)は朝から快晴。午前10時、正門前に30数名が勢ぞろい、山本さんが先導し桜井さんと私がしんがりにつき電源開発・変電所下の源流に向かいました。藪をかき分け、かき分け「最初の一滴」の地点にたどりつきました。足もとはずぐずぐの湿地帯、膝まで埋まり大騒ぎです。そこで多くの沢ガニが棲息していることを発見、興奮は頂点に達しました。次いでもう一つの源流・窪平も探索しました。12時前、泥んこになりながら捕まえた沢ガニを手に意気揚々と引き揚げました。沢ガニにとってはとんだ厄日でした。(山口拓郎記)



源流でサワガニとりをする和光鶴小の生徒

『めだか基金』ポスト

郵便振替で能ヶ谷町の岡村実様から。その他和光鶴小からの講師料寄付、一木会寄付、見つめ会寄付など合算して、11月は合計10,964円でした。有難うございます。

ご厚志を頂くに当って、ご負担をかけない様に「**印字済払込取扱票**」をポスト脇のファイルに入れてあります。「**赤インク印字の払込取扱票**」をご利用頂ければ、**手数料無料**でお振込みが出来ます。またなるべく**ATMでの振込み**をご利用ください。どうかよろしく願いいたします。

郵便振替 『00150-4-574114』
加入者名 『真光寺川里親の会』

私たちの行動基準

1. 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
2. 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
3. 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。

1月例会は8日(火曜日)に変更、神奈川県内水面試験場見学です

相模原にある神奈川県内の淡水魚の試験場の見学を予定しております。多くの方の参加をお待ちしています。車の手配の関係がありますので参加される方は12月末まで事務局にご連絡ください。

☆ スケジュール **9:20 能ヶ谷ユニクロ駐車場 集合**

09:20 能ヶ谷ユニクロ駐車場集合、車に分乗

10:30 神奈川県内水面試験場訪問、メダカやオイカワなどの淡水魚の話をうかがう

11:00 試験場内見学

12:00 同所で昼食 13時頃 帰途へ

『 <http://www.shinkojigawa.com/> 』 ホームページへご意見ご感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』会長：山口 拓郎 町田市鶴川1-10-13 TEL/Fax 042-735-0382

事務局：町田市広袴3-24-11 山本隆治 TEL/Fax 042-736-0214 e-mail ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp
<編集後記>早いもので師走となりました。今年は、高橋日出男さんの残念なお知らせもありましたが、盛会だった真光寺川まつり、活発になった地域の各小中高校の真光寺川への関わり、シジミの生息などに見られる真光寺川の浄化や樹木の伐採による河川敷内や歩道の整備など成果の多い1年でした。皆様のご支援とご協力に感謝いたします。有難うございました。(T)